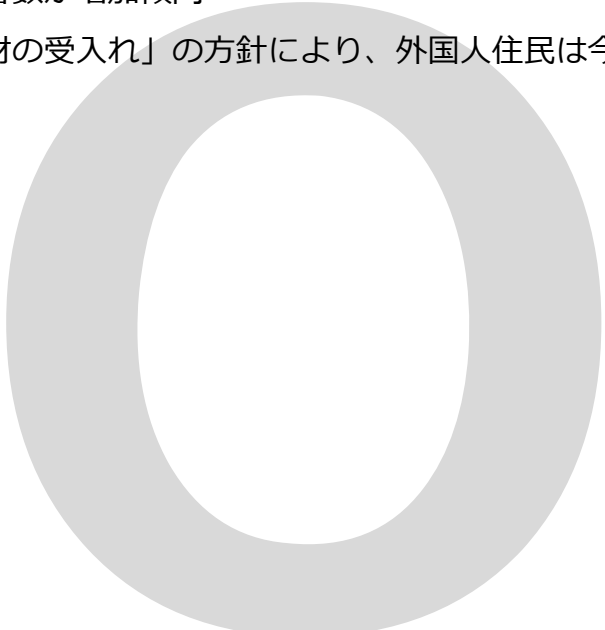


愛知県のSWOT分析

「強み (Strengths)」		「機会 (Opportunities)」	
スポーツ・健康	<ul style="list-style-type: none"> ■ スポーツのプロ・実業団等のトップチームが多数 (野球、サッカー、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、ハンドボールなど) ⇒ 地域の製造業、自動車関連企業の貢献が大きい ■ スポーツ系の学科を持つ大学も10大学 (中京大学、至学館大学、東海学園大学、愛知大学、愛知学院大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、中部大学、名古屋学院大学、日本福祉大学) ■ 愛知県体育館や瑞穂公園陸上競技場などの建て替え計画が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2027年度リニア中央新幹線(品川-名古屋)開業 ⇒ 品川-名古屋間が40分でつながり、日本の国土構造が大きく変わる (名古屋-大阪間の開業は2045年*が予定されている。) ※ 国の支援策により最大8年間前倒し ■ IoT、ビッグデータ、人工知能、ロボットの普及等による産業や生活の向上 ■ 世界中での観光客数(国際観光客到着数)が増加傾向 ■ アジアからの訪日外客数が増加傾向 ■ 国の「新たな外国人材の受け入れ」の方針により、外国人住民は今後も増えると予測 	
地域経済・産業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製造業出荷額は1982年以降、都道府県別で愛知県は第1位が続く日本一のものづくり県 (工業統計調査、経済センサスなど) ■ FCV等の次世代自動車やMRJなど、次世代の乗り物も愛知県で製造している ■ 農産物、水産物の生産が盛ん 		
観光・文化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「なごやめし」などの「食」が国内外で注目 (西尾の抹茶、世界の山ちゃん、スガキヤ、コメダ珈琲などのアジア進出) ■ 大都市の近くに海・山・川などの豊かな自然が存在 ⇒ レクリエーションやアウトドアスポーツの可能性がある ■ 名古屋市はユネスコの「デザイン・クリエイティブシティ」に認定 		
人材育成・国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 愛・地球博(2005年)をきっかけに、ボランティア活動が根付く ■ 外国人住民数の多さは都道府県別で愛知県は第2位(全人口の5.9%)(2015年国勢調査) ■ 外国人住民の69%はアジア地域の国籍(2016年末住民基本台帳) ⇒ 中国・台湾 21.5%、韓国・朝鮮 14.9%、フィリピン 14.9%、ベトナム 8.0%、ネパール 2.5%、インドネシア 2.4% 		
「弱み (Weaknesses)」		「脅威 (Threats)」	
地域経済・産業	<ul style="list-style-type: none"> ■ モノづくり産業が盛んである一方で、商業、サービス業など第3次産業が弱い ■ 農林水産業が盛んとイメージが低い 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2020年をピークに総人口が減少に転じると予測(国立社会保障・人口問題研究所) ⇒ 年少人口(0-14歳)、生産年齢人口(15-64歳)が減少、高齢者人口(65歳-)は増加 ■ リニア中央新幹線の開業により、人材や都市機能が東京圏に吸引されることも懸念される。 (利便性向上によるストロー効果) ■ 甚大な自然災害発生への懸念(南海トラフ地震、風水害など) ■ 山村地域の過疎化の進行、県内における地域格差の増大 ■ 都市部における今後の高齢化の進行 ■ IoT、ビッグデータ、人工知能、ロボットへの対応 ⇒ 現在盛んなものづくり産業が、構造転換に対応できるかどうか 	
観光・文化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京、大阪などと比較して外国人の訪問率が低い ■ 観光ルートにはなっているが、「東京」「富士山」「京都」「高山」「伊勢神宮」などの人気観光スポットへの通過地になる傾向がある。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京圏に対して、若年層を中心に一貫して転出超過が続いており、特に女性の転出超過が男性に比べて大きいことを背景に、若年層で男性人口に比べて女性人口が少ない ■ 海外に対する「愛知」の知名度やブランド力は低い 		

※機会・脅威については各分野にまたがる内容が多いため分類していない